



茶詠指月集



久須見鶴巢子筆錄

茶話拾月集

大坂書外 宗高堂藏板



寄託本

藤村庸軒先生畧傳



先生氏藤村號庸軒又曰反古菴本氏久
田後改於今氏佐二木出枝葉之為人幽
閑淡泊好讀書善辭章常慕陸鴻漸玉川
子之風嗜喫茶本朝自古稱茶僊者子
利休居士也先生漱其芳烈極其澈出淵

源雪晨月夕招好事之遊侶論雲華出美
色次水泉之清味茶話終則賦詩正歌
此自娛餘外不取也元祿^(十二年)己卯九月十
七日元奉八十七病没于家所傳之茶式
載在掛月集所人得其術者甚多矣予曾
會先生子詞場者式用度見其清標竇非

尋常之人今既入鬼錄可勝惜哉追憶
事亦正略傳

元祿^(十二年)庚辰十月一陽來復出日

宇遜菴的書



茶話指月集上

河子時豊后関白秀吉公始々千宗易又臺子
の茶湯仕るごとく作り出さるゝのよ海と云哉
いふもの古来の臺子と云は宗易玄哉所へゆれ
古流と云ふ御殿よおつてけうゆのふ公と流れ
後と云しびく臺子と云くゆ^{ナキ}茶湯格にたふ
とらぬ河子^{ナキ}の衣^{ナキ}と字易古流^{ナキ}がと^{ナキ}、^{ナキ}
つた^{ナキ}に^{ナキ}か^{ナキ}ぬ^{ナキ}とい^{ナキ}く^{ナキ}と^{ナキ}略^{ナキ}しては^{ナキ}い^{ナキ}く^{ナキ}上^{ナキ}

公所く其のいふをたがひてのいふ最ふ
のいふ向後茶の嗜かひんく定むる其子
尺の物つことよ作ると却ての威子流は支上
千家古流と罔利休の流相承し其の

右宗旦物語以下数十件同前但雜話附于後

附

宗易者泉列堺人其先仕于室町家而勤同
朋役以名曰千阿彌子孫以千為祿號

夫レ其臺子ハ茶湯ノ監觴音能阿彌慈照院殿ハ
相傳申上ルノ後珠光ニ傳フ光ハ紹鴎ニ傳フ鴎ハ
故ヘ有リテ玄哉ニ傳フ今宗旦ヨリ利休ノ臺子
直傳ハ藤村庸軒一人存命ノ由此人若シ時
古織ヲ学ヒ遠及公ニ親炙ス強年ニ及ニテ千家ノ
蘊奥ヲ探リ齡八十ヲ過テ一日モ炉火ヲ斷ラス
加之平日各ヲ讀ミ詩ヲ題スルヲ好シ暇アル時ハ茶
匙竹筒ヲ製メ俗事ニ涉ラス門流甚タ多シ

くつこくしよ

宗易露地の樹ツキ、凡ツ松竹あり、木よ、茶チ、莫モどうん
もらと織オリ初ハジメの僧ソウ正マサう谷ヤあく、樵セウの本ホれとのゆりうらこ
みく面白オモシロイ、あいらしく、なほにうらと

附 露地ロチ 南浦茶室記 函ロチ 露ロチ 函ロチ 露ロチ 函ロチ 露ロチ
羅山文集 茶道録

利休リウの袖スベテのまはけとろくく切キと滑ワカく吉織キシの
擬ニギのまう紫ムラサキれお分ワケ以ヒ風カゼ炉カマドれ茶湯チャドウより、中ナカは生ナマに
さか方の物モノ茶湯チャドウよ利休リウとの外ソトよりとこまのつ

氣キと襟エリの露ロ紫ムラサキらうとほらうて露ロの面オモさるうら
心ココロ林ハヤシのふちり休リウのととくうう何ナニもとちあふひし
し亭テイまま無ム功コウうとくまに換カふあうせあうんといぬ
何ナニ人のしつ後ノチの入りよ一ヒト紫ムラサキとわくせの時トキ休リウあて
露ロの掃ハラ除ヘいおれあうううのまマにシくせセ告ツれうら
四シの後のあら紫ムラサキのけとふしとのまマにシく掃ハラぬう功コウ者モノ
せといるうと

何ナニか時トキは吉屋キチヤ宗ソウ無ム茶湯チャドウよ始ハジメの入りよ亭テイまま

古今名水到来いして釜と引上りてのよへ入るの
るに宗易棚し河子ゆくべとありて炭と火い
戸内まいと亭しまぬと釜と抽出さるりて炭と火
と釜と掛か予と席にるしうけ茶湯しと火い
も海よりけかしく三斎に夜くためしうい也

附

其比は吉天下茶屋の水 太周し市堂敷おとらるるまじとん
と急水とくふかしくや系あしく醒井柳水や流まてい三回

休み水鉢の前を捨石へ下人ご同と閉解ぎせざありこと

ゆよのまじくくいぬうと捨せ外へあらひまことゆ
杖しくさぬしものまきまうよりわさし流まじ
ぬしとよ

森口しよ取しびらうの院ありと利体とまかみざり
そとくいけや茶とを人と約とつか色はあぬ大坂
よとまへのわかしくうれ院とありし夜うにむ
ぬそしけし亭しまよぬし庭へ休内よ入栖ルスミキ居いと
いひくやなるまなぐらるる窓のとと人イ住かむる

夕いしきかといれい亭^イ主^イ灯^イは竹竿^カと扱^イ人
 かく神の樹^キかんあ^イに灯^イとあ^イ一^イ竿^イあ^イ神と
 ニつ^イて^イう^イて^イ内^イよ^イ入^イぬ^イ体^イ打^イま^イか^イよ^イと^イ是^イと^イ一^イ燈^イの
 詞^イ業^イし^イ志^イは^イか^イよ^イし^イ俺^イの^イり^イく^イ新^イく^イて^イい^イか^イう^イし^イ海
 り^イち^イふ^イに^イ何^イん^イれ^イく^イ神^イ味^イ増^イよ^イあ^イう^イか^イは^イ内^イ一^イ献
 こ^イく^イ大^イ坂^イよ^イう^イと^イ到^イ来^イす^イて^イぬ^イら^イぬ^イる^イる^イ肉^イ餅^イと
 川^イ球^イあ^イく^イい^イよ^イぶ^イよ^イり^イと^イあ^イう^イと^イは^イと^イの^イ何^イう^イく^イ青^イと^イら
 の^イ入^イゆ^イら^イに^イし^イと^イ始^イめ^イり^イて^イあ^イう^イぬ^イ新^イよ^イと^イの^イ何^イう^イく^イ青^イと^イら

ちのよしと奥^イこ^イう^イく^イ海^イの^イよ^イし^イと^イう^イら^イど^イと^イな^イる^イに^イあ^イう^イ
 月^イ車^イの^イま^イの^イ向^イう^イは^イく^イく^イか^イに^イと^イじ^イと^イと^イす^イと
 入^イし^イどの^イか^イう^イぬ^イら^イま^イの^イ俺^イく^イい^イま^イ合^イう^イら^イと^イあ^イう^イ
 ぬ^イこ^イゆ^イの^イあ^イこ^イぬ^イら^イよ^イに^イれ^イく^イ

宗^イ易^イ園^イ城^イ寺^イの^イ筒^イし^イと^イ入^イく^イ床^イよ^イを^イさ^イば^イと
 ツ^イ系^イ人^イ筒^イの^イこ^イし^イと^イゆ^イら^イと^イあ^イれ^イあ^イう^イり^イて^イ置^イた^イぬ^イ
 き^イか^イと^イみ^イく^イう^イく^イと^イゆ^イら^イま^イれ^イし^イ易^イ廿^イ水^イれ^イと^イゆ^イ
 が^イ命^イれ^イく^イと^イい^イぬ

附

竹筒 蓬山竹、小田原歸陣時、千少庵へ土産也。筒裏ニ園城寺少庵ト書付有リ、名判毎又此同竹ニテ先ツ尺八ヲ剪、太閤へ獻ス、其次音曲已上三本何レモ竹筒ノ名物ナリ、音曲ニ利休在歌アリ、其文今京ノ人所持ス

古織、飛の花入と為板子に、
一、く、石、へうと板、の、を、来、と、か、と、り、と、ぬ、と、

是、の、も、才、子、の、所、成、と、く、せ、と、よ、ら、と、い、ま、て、
利休、盛、河、赤、う、束、の、よ、う、い、ん、か、か、し、く、夜、試、
よ、ち、お、せ、と、増、と、と、ら、う、い、ま、が、と、人、か、感、い、ゆ、
休、の、り、と、れ、し、今、日、の、あ、い、京、流、し、や、肩、衝、し、
柔、と、し、此、羽、日、の、塚、の、く、し、と、束、し、
い、ぬ

附

其時分京し、い、る、夕、の、と、ち、く、何、と、い、く、茶、湯、の、塚、よ、及、以、
天、正、の、末、よ、り、と、京、盛、に、な、り、て、塚、の、衰、フ

玉の比、秀吉公も、こまが金カネの鉢ハチよあど入と床に
 ちんぼせカクハラ傍カクハラし、紅梅つゝゝ、玉さうと、字易く
 春のうらぬのまとして、作らば、近習の人、難題を
 と、呼ホまゝか、と、字易、紅梅の枝さう、子に、なり、水清
 よ、あう、つと、あれ、入レ、さう、ま、い、用コ、こ、ま、か、と、蓄ツ、た、ら
 ま、つ、つ、水、と、い、は、ま、ま、か、ぶ、え、と、い、し、あ、同、流、中、く、ぞ
 む、ま、か、公、何、と、せ、し、て、利、休、り、と、お、ゆ、く、勢、う、と
 と、れ、と、い、い、ゆ、く、あ、や、の、し、も、その、上、意、の、感、料、さ、ら、ん

休イッ、何、か、時、中、村、入、り、ま、は、小、座、敷、し、自、在、し、金、と
 け、り、く、独、何、か、取、へ、少、庵、見、舞、く、は、座、あ、う、い、自
 左、取、合、り、す、と、し、ま、休、げ、し、よ、と、誰、も、釣、よ、い
 ン、れ、を、か、こ、あ、や、の、し、何、ま、し、少、庵、誰、が、け、ら、う、こ
 何、よ、と、か、く、自、ま、い、え、何、あ、と、し、ん、控、の、子、へ、入、
 今、の、人、自、ま、あ、く、茶、と、その、か、時、よ、く、あ、あ、か、金、と
 少、し、け、り、上、ら、ば、い、本、ま、に、あ、ら、ん、と、あ、ゆ、か、う、に
 釣、ら、け、て、も、ま、ら、ん、し、し、げ、し、い、せ、ま、か、し、と、也

位吉の社家のまゝうー休し交うーすーその人
貧^{ヒナシ}うらまきりと何うも細工うらまきとし自互に格と
割^ワく休う判^ハをく加へよ尺價^{アタヒ}と約^アうの^ハれ
取^トめぬうと鑑^ミせしり抄^シりゆり

古人の落^ノ地^チのふ打^ウうきんと吟味^{ギンミ}をうり懸^ケの口切
の時分^{トキ}のあ^ハの入^イりよ一^{ヒト}つの荒^アる三分^{サンブン}一^{ヒト}程^{ハヤシ}時^{トキ}の
里^{サト}か^カび^ビよ^ヨしと^ト甚^シき^キと^トが^ガ時^{トキ}の^ノあ^ハ打^ウぬ^ヌと^ト夜^ヨの
涼敷^{スズシ}屋^ヤに^ニお^オま^マう^ウー^ニま^マが^ガよ^ヨし^シら^ラ口^{クチ}の^ノる^ル一^{ヒト}の^ノ

あつとぬう取^トう^ウく^クあ^ハつ^ツ也

附

あつとぬうく水^{ミヅ}の^ノあ^ハつ^ツい^イの^ノい^イぐ^グく^ク蒙^{モウ}し^シぬ^ヌ本^{ホン}を
に^ニお^オま^マう^ウの^ノあ^ハつ^ツい^イの^ノい^イぐ^グく^ク蒙^{モウ}し^シぬ^ヌ本^{ホン}を

利^リ休^{シュ}門^{カド}下^ノの^ノ人^{ヒト}の^ノあ^ハつ^ツい^イの^ノい^イぐ^グく^ク蒙^{モウ}し^シぬ^ヌ本^{ホン}を
あ^ハつ^ツい^イの^ノい^イぐ^グく^ク蒙^{モウ}し^シぬ^ヌ本^{ホン}を

さ^サが^ガ田^{イナカ}舎^カの^ノ宅^{タク}利^リ休^{シュ}へ^ニ金^{カネ}子^コ一^{ヒト}兩^{リウ}の^ノゆ^ユせ^セく^ク何^{ナニ}も^モも
茶^{チャ}湯^ユる^ル具^グ求^{モト}く^クあ^ハつ^ツい^イの^ノい^イぐ^グく^ク蒙^{モウ}し^シぬ^ヌ本^{ホン}を
白^{シロ}布^フと^ト買^カう^ウけ^ケり^リす^スと^ト宅^{タク}の^ノ何^{ナニ}も^モも

こまひるとい茶いのめはとせりひやりまが

素山左近宗易へ落路のまうひるうかたの

クリのまの時

山家集

櫻の葉のともみらぬかたのらうけが奥の寺

れろちのまひくとい古の一首やうの湯くくとけり

附

遠及公もはる人のとと人夜のふ入もやうの合

点ゆもくといけりいとい奈の

夕形秋海とくといか本回うか

古織のよのけぬまかといきく本るらう

ゆかといく天井張とくといきとくといき

古織のまよるまのけく一教寺屋うま

葺果戸のとりせうけか山家といけく俺

そかちめとまといて床く一法語絵賛

類筒くうの海いぬとく一入し炉よ松風と

煮く自足業教と苓通く一竹と茶たま

何れも〜が〜人さ〜此様は御前
 千字且茶湯の事や何れ〜御成い〜
 且茶の存り茶は點〜茶椀と以前〜
 か〜御前と〜字且臺天同妙〜何れ〜
 人〜茶と〜何れ〜御成い〜且御前
 御うれは貴人〜進上〜御成い〜御前
 小庵お〜御成い〜御成い〜御前
 お〜御成い〜御前〜御成い〜御前

其うを〜長押は張付〜御成い〜
 臺子と飾り茶湯は〜字易教〜御成い〜
 侘〜御成い〜竹椽鏽澀〜御成い〜
 の栖居は〜御成い〜御成い〜御成い〜
 臺子取合〜御成い〜御成い〜御成い〜
 臺中〜御成い〜御成い〜御成い〜御成い〜
 臺天同妙〜御成い〜御成い〜御成い〜御成い〜
 御成い〜御成い〜御成い〜御成い〜御成い〜

内通きかとし

何れも不審庵へあつて深文よとらし休
短檠より他をせしめし小姓出くよれに
ますやまきさやうにますすいぢりしとあま
うづくい出ぬぬものあやしめ

秀吉公宗易へ大仏の内侍とがししく茶湯と
るい世とていぬ何りし丹易をうく思案
る安ら仕るよとよと上

休はる時、有樂三斎、織部、
何れも水の柄抄一本のぬいし
私もおもいしんとし、松再會し、何れも
也、松亭とてくるがし、休はる
よ、よとていぬ何りし丹易をうく思案
のこやよ

宗易、花の清きか、俺とけいし、
あく其方在り、釜とあやせ、く
路

予も是れ今日ケフの早給ハヤカよりと云はれしに
 由らむと云ふをいせし
 何とと答ふつわさるるのそくを
 かく倦るる
 の是よりいふと云ふをいせし
 おぢやと云ふは
 嘆タはれり
 しあはれとといふ

茶湯しりあさなと牡丹ハナの好ぬとて休やすむを
 この笑
 答こたへて此の牡丹ハナいよしとて
 花ハナい入いはれ
 織部オリの衣イの本道と嗜スキむつ
 せがと同一との
 事コト

附

日本道ニッポンの芸ゲイ玉蘭キョクランといふものあり
 七十年以
 前マカよりくちせし
 稀ヒめとて
 西の津ツの
 ありと花ハナの
 色イロの
 茶人チャニンの
 見ミか
 せ

不易フイコ存ゾンし
 牽牛アサガハ花ハナのみ
 下に
 花ハナの
 下シタの
 茶湯チャトウし
 後ノチの
 沖ウチの
 けし
 朝アサの
 花ハナの
 一ヒト枝エダは

此と奥一りゆりゆり相小座敷へ入あまのこ
 向きやうねあ一輪座しつぎより太周とらしめ
 召つとねまし一人こ目さげんくらしきひく
 しまの腹羨一り向いのかきとせしり相体あま
 本の茶湯と尸体ま

附

入御うに候子かたとさるし相一掃子
 よひきく人とかきし海りともかひ体りか

意しゆのいひかこしゆの段にまこし相んか
 奥して茶湯のうりもまきと休りゆりうい
 一掃床しつぎさげゆ休りゆりゆりゆり
 家ありしの後きまこのりし病地は可と
 うるりまはえし茶湯のもと一服賞取ま
 養れり

体取幸にせとるまの事りみ子とよせかす
 に組合とがの功まきしゆりく

附

是^レ重^{オモク}敷^{シキ}道^{ミチ}具^{ツグ}ニサビテ軽^{カラシ}キ物^{モノ}又^{マタ}大小^{オホコト}ヲ組^{クミ}
 合^{アヒ}スカ好^{ヨク}ト云^{イハ}フナルニ音^ネヨリ肩^{カド}衝^{ツク}ノ茶^{チヤ}合^{アヒ}ヲ
 出^デスニ六^ム為^{ナリ}奈^ナハ東^{トウ}丸^{マル}壺^{ツバ}ニハ中^{ナカ}次^ジ雲^{ウン}龍^{リウ}ニ盥^{ウラ}ノ水^{スイ}
 指^{サシ}大^{オホ}風^{フウ}炉^ロニ小^コ板^{イタ}勿^{ナク}論^ロノ事^{コト}古^コ織^{オリ}ノ細^{ホソ}口^{クチ}ノ釜^{カマ}
 ニ小^コフリナル柄^{カバ}扱^{アツ}却^{サカ}テ取^{トル}合^{アヒ}スト云^{イハ}レシモ亦^{モト}廿^ニ
 意^イナリ

行^{ユク}休^ユハるるの采^{サイ}地^チ拜^{ハイ}領^{リョウ}〜〜家^ケ内^{ノウ}〜〜

少^{オホ}ア^ア〜色^{イロ}千^チ鳥^{トウ}の香^{カウ}炉^ロ
 手^テの字^ジ襪^{ワク}疊^{フミ}〜〜
 手^テも〜〜
 手^テ截^{セツ}入^ニ〜〜
 手^テと〜〜
 手^テ〜〜
 手^テ〜〜

附

古来香炉ノ茶湯ト云フ有リ其故実知ル人
 稀也先年三奔公ニ宗易ヨリノ直傳有シテ
 三宅亡羊香道ノ達人タルニ依リ奔公ヨリ亡
 羊へ御傳授アリ其後亡羊ヨリ藤村庸軒へ
 傳へ田子浦ト云フ香炉ヲ与テ印證トス
 何分時蒲生飛驒殿長岡坐奔翁兩人利休
 不しく茶湯色々後蒲生反子どりの香
 炉取寄云々と体吾與申ていやく香炉と云り

かー灰と打河をなぐーかほ出翁清人
 寫の哥ちんつめやしーんく体吾色まら
 いらにもやういひのむらり

頃徳元門百首の中ー

傳んくもゆよぬ浪れうん

月中心くゆるかじりか

このらぬハキマ中茶湯れとー海くは翁
 小かーくおんとや吾用の取寄らなとらとハ

あふりし村千鳥と香炉ししはしそふみか
たしとつと何事も真のさふかいはし
ししたるゑわし風流たつりか煙^{コトナリ}たふ^{ニミ}
あともんくゆか

或ノ云ク廿歌千鳥ノ縁アルニヨリ南産引合セテ其心ニカチ
フ奇ノ本意ハ千鳥ヲ賞スルトゾ

豊后殿下西園退治のせりしに帰城の取家易
も供奉し尼濟りゆく教内詔知ら左而とゆくと
まとの^{ユキミ}治しけか後詔知何れともむる紀

生んと何としをり姫瓜のむきくゆとど^生
た^相あ^ナうかあ^ナとみしと其介何とゆと^生
と^無あ詔知けし^無たか^無ま^無と^無世の業^無と^無とも
入ぞ^無あ^無よ^無れ^無生^無れ^無ん^無う^無く^無う^無る^無詔^無と^無一^無枝
ま^無う^無金^無の^無花^無入^無り^無姫^無瓜^無の^無の^無か^無と^無床^無縁^無ま^無く^無せ^無と^無を
ま^無が^無う^無し^無ら^無ば^無り^無く^無か^無あ^無く^無き^無う^無是^無よ^無り^無詔^無
あ^無其^無花^無入^無と^無秘^無藏^無し^無く^無む^無め^無瓜^無し^無名^無の^無く^無詔^無知^無来^無
の^無あ^無く^無後^無も^無あ^無く^無侍^無人^無く^無と^無に^無あ^無わ^無を^無

附

天正十五年、秀吉公西征之事、坐奇翁道
記ニ載ス其記ノ畧ニ同年六月八日利休居士
其へ関白方秀吉云後沖、何りて、祭白の、向
けを、る、こ、より、何、ま、箱、崎、ま、八、徳、の、云、

神代り、と、あ、え、け、涼、し、松、の、風、由齋

千字易よむ

何、ゆ、う、が、む、の、は、み、こ、り、よ、り、よ

と、ん、こ、も、同、じ、な、な、と、い、わ

し、つ、ひ、が、こ、ろ、を、れ、き、る、を、事、に、同

何、ト、い、う、が、む、な、し、の、様、と、な、つ、む、を、に

と、ん、こ、も、同、じ、な、な、と、い、わ

休虎の尾とつみ茶花面、向きあり、の、と、り、に、入

に、子、新、り

何、子、時、乃、安、我、と、け、ま、く、古、織、の、茶、湯、く、ゆ、り、の、

事、主、鎌、の、お、め、く、炭、取、望、何、り、と、安、灰、土、鑄、と、い、ふ

よせ炉中とくくとおしく後炭とまうとの炭に
に真しく入る平帰海くおよんく織戸いと
字色るがく炉中のましく双のあくまきふ
とくしく安より家色くも何ま何れも何ま炉中
おしくくい炭がまれおしく

小座敷く衝上とのめがはる床床とマ尺三寸
よ錦がかる安くく何りしが体もよしく
りひまがくやまみぬりにまのかし炭床しも

しーの折よとまむとゆくまめがと安金のせ
柄と付より体くゆへる安う炭くひ飯抄ま六
座うをそてあひまがぶくも後いそと用心の
休の衝上の障みとをまうくいあく不自由が
あはるか人くく上へ漏とやうしてははらま
ましくつねんつやと座うに掃かしてはまい好ど
いぬ又座く掛か釣舟の折釘も可しくそのが
中折し内くけうくつりく下子かめや

もかきし 心 ちんりやけりて何んこいふ人日 感

附

休之意ハ漢陰唾 枯槁 同日論乎

宋易のりの以うきん三奇ハ爲の苞丁而後中
そとんおそ病を好て 踏くして 何とて
まはと易称しく後末那板の恰合すこゝに
くくしくいつくと同フ 奇 厨 右 久 以 吟 味 あり

此之法のフが板あむびゆくゝと一分しう
らうむいしや其時奇をもと掛くのもあつたかく
心 斂 と し や む と

附

三奇丁翁吉田し〜に入時亡羊へつめうり
も〜い予うをゆり利休と出〜みち中 ウチ
その以服指の鞘と好〜くお來〜がと休よ
こさぬとんけ前るる〜見せ〜ちと鞘く

うつゝのちも指合やうくまのあなはたの靴
形何より足事なれはうへへ入るといふ人
さしとて海ノ土産の内りのうきとて
しごといひおん口好くおとて其靴より
き及つてしつふ平のうき靴中流とて人の
ゆかしけふに日中はあつていふとてあひか
飛もやうとせまんとてなんのうきとて
其靴すし入もゆきうてそくしゆとて

^{ホシ}なうしてあつてはよしとて^イ服指の靴も
しぬりともく亡羊へのせまうし又さ
方舟とて休小刀の入事何うして借のまに
ゆきともくは靴の形は誰とてうきとて
紫の管弦の靴ともく名何れもしとて
うきとの靴は小刀の面白うがしは貴
年といふ合やうとていふあはれと好く
ふといふうきとてあはれとてあはれ

ふかと今に秘苑して持とく是も四のせい
りく、両面南鏡ゆく形、虫柄、いふゆゑ似
く、所して模様もむととと、恰合申、ゆゑ
みえのかり、七羊、奇、庸、斬へ、る、ま、り、ま、さ
と、か

薬院の小座敷、字、是、其、地、と、極、く、と、指、圖、一、也、也
大工、一、五、よ、と、つ、い、付、と、と、し、本、間、さ、ら、ぬ、畳、入
繼、打、く、も、と、と、ゆ、り、か、来、り、り

休帯に茶湯、伶人の装束、れ、る、に、成、り、さ、ら、ぬ
と、め、し、事、少、ふ、に、仕、務、う、よ、り、し、と、し、い、り
と、桃、の、釜、く、り、つ、い、か、来、い、時、休、帯、よ、入、り、て、い、り
よ、く、画、炉、裡、く、り、と、と、い、か、釜、と、の、も、五、徳、五、あ、る、に
自、在、く、り、釣、り、と、茶、湯、く、い、く、お、さ、し、又、一、と、せ、れ、た、
と、周、中、ら、の、前、く、雲、龍、の、釜、の、ま、り、を、の、ん、く、り、と、字、是
く、り、茶、と、點、よ、と、作、ら、が、折、し、も、の、近、習、ゆ、り、く、て
十、服、づ、ら、り、懸、り、か、に、其、湯、始、終、さ、め、あ、り、と、ま、り、と

れん

附

雲龍ノ釜ヨク沸シテ茶ヲ煎ル毎ニ水ヨキ程ニ
 リセハ湯ハサメヌモノ也又雲龍ノ釜ノ内ニ湯少
 ク見ユルヲ嫌イフモ八九分メアルヤウニ水ヲ指合
 セ茶ヲタワル好シレモ仕舞ニ其マ蓋ヲスレハ湯
 煮コボルユヘ湯少シ抄ニ汲上水霞ヘ捨テ仕舞
 ガ故實ニテ有也是モ亦古人話中ヨリ傳フ雲

龍ノ茶湯ノ趣キ不圖コニ記シ侍ル今世習号
 シ梓ニ録茶録ノ類ヒ可否紛然トノ信用シガタ
 キ事トモハイカンゾヤサルニ依テ古ヘヨリ何ノ道モ
 相承ノ正キ師ヲ尋子程門ノ雪ニタスム志ヲ
 称ス

ひいひい馬車^{ウマクルマ}の炉^{カマド}ま^まり^り成^なり^り極^たり^りて塞^ふき
 風炉^{カマド}とりの入^いり^りつ^つて釜^{かま}とい録^{ろく}又^{また}い自在^{じざい}ゆ
 も約^{やく}を因^{いん}炉^ろ裡^りぞく^くの^の厨^くに^にあ^あ指^さと^とを^を合^あせ

茶と茶の多し、院中に多し、似合く、しりぬ面白き
多し

休、茶垣カキと結ムスとゆ、い、藤フジ繩ヒモじり、い、い、
繩ヒモとせ、とゆ、い、い、竹タケ籬シメい、人の長短と揃へ、と
い、か、方、い、て、少、座、と、杖、皮、埴ヒヤと、い、て、い、人の、也、ね
奇、竹、い、と、ゆ、い、成、る、人、後、い、常、の、壁タテ、母、ち、か、ち、の
な、し、つ、り、い、又、い、か、人、ま、こ、子、ま、の、竹タケ、越、ち、打、指、と、ら、と
少、庵、い、と、い、ふ、い、新、古、取、と、せ、く、人、と、ち、も、い、ゆ、た

も、ゆ、い、と、搦ヌく、も、い、の、類、杖、奇、た、に、さ、ら、ぬ、い、
壁タテ、い、連、子、竹、損、い、と、ぬ、い、ち、打、と、く、よ、い、い、れ
り、い、其、伝、玉、い、い、い、と、貴、人、と、り、法、事、と、い、い、の
こ、く、も、取、も、い、ゆ、い、ゆ、い、れ、い、

附

休、没、後、世、間、の、茶、湯、一、変、い、い、と、也、毎、改、り、ゆ、い、
事、に、成、り、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
い、後、戸、の、押、縁サシ、少、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

しやうやくにぬくへるとかりとらむとも願う
し竹輪のこころも一さふらふよめりこゝろ
しきりしきと

雲ふとつは肩衝埜の人あぢしそはう利体れ
と振こくくううく茶湯くかきそはし体一向
象にうぬ新し亭に客降りく後苗世体うめ
わつぬ茶入おもあはらぬとくく五徳しノ擲ら
攷きかと傍^{カネウラ}りもまが知まの人もらうて帰ら

子にうぬ継く茶と僧しあうし体よ
そとに是くし茶入也事うとてその外
符券もようくし勢もその持方へつひや茶
入私産せしとよして度し念りの後件し肩
衝丹後太守價千金しん求ゆくげし
目ししあぐく合さうきかと継うくしんや
し小堀遠及相談しつ遠及世肩衝破しん
けさうと合ぬししてし利体もおしあう

名高くもずしゆさうやりのゆいあまはくき
よくいとちりあせり

附

古織今之茶祝をあらくともうとわざと鉄
く用なりと一と何とよかぬぬりあせり
つふ人も何とよと茶入らとく後利体却と
称羨一遠及もかくのまめくして茶道の
同流別一りまこと知る一^{コレセ}此の茶湯人の

つとをよとばしむ多の古風とちいせぬ
と屋の類一何とけいさめりよと破字か
茶茶撰一かか書昼ゆりよばまけいさで
ゆいといなりぬ徒然草一りすりの表紙
とてく換るがう俺一こと人のつひ一よ
れ何いふいあの上と下とるま螺鈿の袖を具
やらく後とわうきれと中何一ことか
はうりてまこ一り一紙と何か草子やかの同

厚うにもつねなとこか〜と〜と弘融信
初うめと必一具〜との人とよか〜は〜
ここの〜が事〜不具うらよよ〜
む〜に〜う〜ゆ〜

つか暇利休を安可へ茶湯〜ゆ〜と落地よ
幸同伴の人へ飛ぶのうら〜の〜
も亭〜を〜笑し〜を〜
わ〜つ〜も日〜の〜

る〜と〜と休後の入〜
ア〜とした〜人〜
其高ハイ低ダイ〜と〜人〜

茶話指月集上終

茶話指月集下

天正十四年種

源君濱松より沱上河河といふを以時豊臣関白
大坂より沱のくみ新由郷食を最善養と評する字
易として茶を悉くしめふ沱帰國する人々
其て沱太刀不動國行 沱茶壺 白雲と評し
る也

附

指月集下

茶壺ノ勝タルヲ元真壺ト称ス其次ヲ呂宋ト
云フ文祿癸巳ノ歳塲納屋ノ助右衛門呂宋ハ
渡リテ真壺五十取リテ歸リ太閤ノ上覧ニ入ケ
レハ宗易ニ甲シノ只ヲ分タセ價ヲ定メテ取置ノ
人ハ遣スルト也

宗易ハ盛河添リ東冬漆ノ滓とまぢくづらと
名中次ハ名と入ぐ真一ハ名ととりひり紀
三よ三ハ東ハ壺みじしとまぢくづらと中次

此秀次藤重とよとと

附

先年千古宗佐物語ニ昔ヨリ中次ハ癖アルヲ
嫌フ東ハ厭ストイハレシモ此意ニ合フ

何カ時、有樂公利休方へあるのうらにぢりぬ一茶
へし古蓋、丸合、居るがら其うら大ぬり戸がわ
のうらやのうらと却くくはらぬくはそ
る樂へしせすその後公の茶入し、件のうら

有ことえ合せ体へいせんとしやうの也投奇
一概イカくよりとありありせし茶入りの新蓋
ひよく合いうゆりかくゆとりしり

体障子の紙をけむりき一分の細一分の太
いとやぬ

利体各登の糸と云の席めく勢多なる櫛キギの擬法
昨れ中に形のみまはらう二つある分かんた
わらうと云は其座り古織居座と云はわら

ろくは何ともありしじあり晩方入りり
とそなり休何れに用人のかをしつては
別義と云はぬどわり試し見分ちり
そめりや打めく勢多へあり只と云うし
二のれ擬法昨の茶おのそくありやゆり
とし休りにもとそめくはと答う一府の人古織
の執心と云は威しやあり

宗易 太周の命り宵くは予大徳もより系へ

宗易 太周の命り宵くは予大徳もより系へ

かゝる山門の前めく利体りていの業わざゆゑのつて巴ひへ
へ糸いとをぬ体てい業わざゆゑのつて巴ひへ糸いとをぬ
ちりんととれう永決えいけつゆゑのつて巴ひへ

体てい中ちゆう害がい中ちゆう後ご何なにか内ない太たい周しゆう風ふう炉ろの形かたち何なにううととのの好こう
何なにとといいふふががややううののととにに利り体ていゆゆとと教きやうししくくととををかかと
何なにとといいふふと

権現けんげん様さま利り家け公こう兼かねく宗そう易えい本ほん不ふ便べんががららややままじじく
ううににおおりりととゆゆががらら少せう庵あん道だう安あん門もん免めんのの口くち取と成せいの

とといいふふとと下したははままじじのの建けん門もんゆゆかからら考こうへへりり其そののの後ご
たた安あんととのの前まへへへりりににままじじとと半はんととああららうう茶ちやととそそととままじじをを
上うへへへりりてて宗そう易えいののよよままののししととああららうう何なにとといいふふのの
のの威いににりりがが

附

宗そう且かつ始はじめのの業わざ阜ふのの唱なう食じきめめととああららうう秀しゆう吉きち公こう
夜よにに宗そう易えいへへのの成せいの時とき分ぶん門もん給たま仕し相さう勤きんとと門もんにに
新あらたりり何なにかかにによよりり宗そう易えい流りゆうのの教きやう弄りゆうるるりりかかのの唱なう食じき

舟をぬてよもの上を急めく長櫃三棹拜領
 世々利休所持のるをこころへをきこひくち
 千家よつとあつく宗旦も文のうらまはへし
 天正十九年正月十三日宗易 太同の所勤
 業と蒙り不審庵とあつく塔へ蟄居晴く小
 東一ツ茶守家と左右の神中よりあこめ茶ゆ
 此のうて塔へあつて流布す茶ゆふ
 えたり風くはあかしくはけうたきうとこに
 消息

んぞに思本とさるぬしりのまうり

うやこのうらまはへし
 大中

先年廿自筆の文人のまのあし不曲其心
 可知又利休生害のしとあつて妙法回をたあし
 くのまにあれうもへうとさゆしと宗易あお
 のるりし自愛と成りせしものゆね奇回
 すひる人のあぐゆるこころな又終りし
 のぞんく小姓よ茶を點せ飲まかたこれ

糸梳今とよりの毎月のゆよと嘆く夜よ
擲チくくぬくゆりー甫竹とよりの拾ヒひ
何のゆ継合をく其より侍へく今と大坂ゆ何
りるやうのゆまくと海よりにせふかまくと
其人とよふゆいし

天正辛卯二月廿八日利休居士辞世

人生七十 刀圍希咄 吾カ這コ室シ劍 祖佛共殺ス

授るころえり足の一つ太刀今この時を天よるを

一とせ信長公よりの字易へよりの肩衝所取寄の
り作部かとの以利休天王寺屋宇及し不和
なまことよりの肩衝取持とけりより公へ換移
し茶入百何きと進天王も金と分の黄金拜
領とあまにゆく宗及一礼かまり利休へ惣看黄
金とましく總か休りの役高にあまことかま夜
茶へ依帖キまきとあまより換移中の
あし日法の不和よおりく髪カがし何あま

あつた人きこの贈りも受るる道理なりとて
ふに時を人々の私をうけうめごとくと稱へる

附

信長公へ宗易廿肩衝御挨拶申取ニアラス是
ヨリ向公作物ノ御茶入ノ袋ヲ易へ仰付ラレ
時廿作物記ヲ相國寺惟高和尚書タリシト聞
汝知スヤト宣へハナシ候松永彈正茶ノ會席ニテ
一覽申ワルガ天正五年、乱ニ信貴城ニ於テ燒失仕

其字塙ニ御座候トテ取寄せ差上侍ル

音年宗易茶袋の新舊可らずとつら價
とまがし私曲のあし太周へさし
るのりくく一夏とえに宵のし人終し
客にみよもの私曲のしと字及肩衝から挨拶
抄めくろくし押さる本像と龍寶のふん
み上舟岡の墓をがしとめしし水鏡
用かといふんをむ借しつらしつらん

ところも聊いかに至處とりく痛をく儒にの天地
 同根萬物一體とつひに一の如くした
 了没後貴賤とさうに其を至の牌と仲の殿よ
 至高僧碩師とひを一の拜とさうに沈号とて
 授けるをくしある古の一のの檣が杭を礎のの類も
 一のしの子の水の新のくの河のぬのいの井の華の水と湛へぬ
 とくの人のいのくものの子のにはびといぬ瀬と河の公の地
 清涼をくくじの夫の如の来のよくぬと轉りくよりの澤

穢不二のとつととを悟んとの人の千の都の
 傳人の来のがの利の休のにの方の併ののの新のきのまののの仏の也
 河のぬと蚊と蚊と蚊と女のカの自の仏の遺の像のなりやいぬ
 ちのしの是も特くくのしのいのうのぬのをのかのや又をた
 ちのぬより石の灯の飛ののの大のがのかのがの晴の嵐の陰の雨の
 年のへのかと念のくくくのてのまのののいのく
 寺社の四徳遠山源林の中のにあとうのの礼と
 ありくくの望のびの人の少のきのいのとのなのさのいのこ

ゆがきまよ日の後堂の灯笼三月堂も建長
六年十月十五日と歌付まが古代のものなり
東也くき高桐院の灯笼利休取持今
當院有馬才一とし
其外太秦もゆるせしこの類なりしもの
しとちてくや人しゆるとせ

口切の時分宗易まが信のくく鴨屋の宗安ととも
まひらく池まよの病地の中垣しあめさ狐戸
と約りまよの宗安まびくまよと約くいと何まよ

易ちまよのまよと存まよ却ま法攝成と約
戸とにせ存まよのまよと約くまよと約くまよ
まよと約くまよと約くまよと約くまよと約く
まよと約くまよと約くまよと約くまよと約く
まよと約くまよと約くまよと約くまよと約く
まよと約くまよと約くまよと約くまよと約く
まよと約くまよと約くまよと約くまよと約く
まよと約くまよと約くまよと約くまよと約く
まよと約くまよと約くまよと約くまよと約く
まよと約くまよと約くまよと約くまよと約く

茶湯をみしゆ

の分時今日庵主吉宗依へゆくりは宗易の尻脹
も茶入と替く二のよく取物と一の三奇へゆ
りゆせ一の平の節よ傳へそ何とあまの時煩し
厨之^{トホニ}り^{トホニ}と^{トホニ}の^{トホニ}姪^{オイ}の九^{トホニ}を^{トホニ}染^{トホニ}り^{トホニ}其茶入替りぬの
一^{トホニ}金子酒^{トホニ}せ^{トホニ}の家^{トホニ}が^{トホニ}あ^{トホニ}の^{トホニ}あ^{トホニ}く^{トホニ}い^{トホニ}く^{トホニ}え^{トホニ}え^{トホニ}か^{トホニ}と^{トホニ}え
先^{トホニ}く^{トホニ}き^{トホニ}が^{トホニ}あ^{トホニ}の^{トホニ}も^{トホニ}も^{トホニ}あ^{トホニ}る^{トホニ}く^{トホニ}う^{トホニ}の^{トホニ}り^{トホニ}き^{トホニ}や^{トホニ}の
府人茶入を河見茶の一とからとりのぬくや

い

附

利休の静かむ寂するを好むと好むとせむうとれ
也と愛せむと妻本^{メキ}といふは取物の茶入も飽く
とるれ一とせむくゆるよ一みまが人志の
ころ也

今日庵宗且老人之別号明曆丁酉十二月

十九日病終于家^ニ年七十八

指月集

圓明禪師贊於其肖像

今日庵中、曰主人 一生竟不走風塵

莫言這裡絕消息 寫出丹青面目真

秀吉公聚樂し、かつし、向し、せがら、此の雪れ、
宗易と、り、く、あ、し、町、茶湯と、ふ、の、流、
以、あ、く、に、上、立、賣、針、屋、う、い、と、中、と、け、う、ぬ、い、
汝、と、の、ま、く、沖、成、河、と、い、ま、れ、ん、う、く、即、割、後、津、
つ、と、ら、海、よ、く、の、茶、ふ、り、の、磨、美、に、あ、げ、う、か、も、

人の身に、あ、ま、い、流、あ、く、及、び、音、の、く、り、を、ち、僅、
や、る、口、の、あ、ま、い、あ、く、か、所、へ、後、津、の、り、
も、茶、の、法、と、し、を、あ、ま、い、

附

つとせ、休、雪、の、曉、葎、屋、町、の、宅、より、と、暮、々、と、
さ、さ、さ、紹、知、所、へ、ら、の、の、ま、い、う、露、地、
へ、り、く、この、ま、ぬ、く、う、く、紹、知、速、く、あ、ま、い、
千、多、の、香、炉、火、れ、え、う、か、と、あ、ま、紹、知、と、て

石の神より後なる詔知友の子にうきこゝれ
私も懐中いもく、右の香より香好ともい
体もなつて入具さうゆとて

太周友の石大仙院へ所成の石、宗易一書
けうりゆつまことゆつ所幸窓前より入るるが
るとこころよくもく、其うきいよひのち
へのかきゆつ海にありらるるも、もとせ
時く、あくの風流一書、そくも

附

利休物数奇、羣ヲ出ルコト多カリ、昔長岡休
夢ノ茶湯ニ、^ナ燗炉裡ノ内隅モナク、^{スミ}口クニ見え
侍リケレハ、庸軒其席ニアリテ、カヤウニモ仕り候
ヤト尋申タレハ、宗易折々カクセラレタルカ面白
カリツルトテ、^{スギ}三奇ノ嗜ニテメオレタルヲ、我モ見
習ヒ侍ルトノ給フ

又元伯老人体より、の侍あり、く、風炉れ内に

大茶と二枚まゝ茶湯のついでと及古唐
 よくあらしむる今人あも侍ふりつてもあ
 預〜こと〜せ又先年さか人且翁へん舞
 つまじし折ぬ〜茶湯前あ〜僕湯地を
 掃治ちつがと翁のみく河の斥隅の蝶は
 巢むといふそのま〜跡〜く仕ま〜と〜古人
 の風流のま〜りのま〜ひよ何れと感〜ゆるぬ
 や〜が〜手も是とす〜の兼好法師は河

も幸のう〜かりそが〜河〜い〜し〜残
 しそがと初ららまそが〜お〜〜海〜る
 のぶが〜い〜し〜い〜と〜か〜し〜河〜を
 ゆ〜ぬ

道安暑氣の時分まのち桶〜〜〜水と
 さらして四〜す〜い〜ま〜く〜あ〜く〜あ〜は〜ま〜れ
 各あ〜と〜よ〜〜と〜い

附

其後風炉の茶湯よりついでに湯いふ拵の如
 くに蓋フタも水とくぐりてこのまゝに小板コイタを入
 りとのうひく茶中とて並ぶるナラひし

利休阿茶年の口切り物モノも丸釜といふし
 多し例の七人前ナナリかきこり祿禄前前家
 其うら獨ひとり似にか釜かまえかき茶湯阿り休休産
 物モノ救く弄ろういいちち玉たま瓶びんねねと存ぞん存ぞんてへん其其丸丸ふ
 とおとおお部部くく口口方方かかと叩たたおおししくくううしし

釜かまよく似に釜かまとくとも第二義第二義にあらくあらくく
 湯ゆくく湯ゆとくともとよむと名物といいくく福ふののも
 中ちゆういいどどくくに勝かちててが所ところあり第二第二ににあららん
 又重名のありとくかきし將まさに地ちも阿ありか
 人ひと評へやう也也宗易作の竹たけ拵こしらへ所持しのの家と
 加か州しゅうまら太守御所望阿りくく戸とつつぬぬせせいい
 づつづつくくいい物ものとくとくに秘ひ藏ざうの解とり黄金數片
 賜たまふふ是こも宗易子すけのの物もの也

釜とよが時重カサ子が環の内へ指サシとひらく持を三十
六人の救珠といまぐばやうあく何一ことと嫌
たあぐい勝のりとと持たあぐい子内ウチに載ノセく持ツが好ヨシ
凡ボ衣敷の客今の座りに居替カがと一席さびし
ふりやく音の人のあ後同ナ一所になどがし

附

四帖半のぞうシ記をむ替りまふかうよりと半

傳ふ 古宗佐物語

何が時宗旦を人予久須見う 糸席カく吐クくたタし
ゆるルくクき音の病地チくぢわり土とあぐい山ヤマ
あふもかきばうけし今のあぐいあわりと堅ツ打ヒて
の水鉾の何ナニたりを人いもぐりまうにく何ナニやうし
又マタのあけも今イマのあ人のあアくくく柄抄ハシの
さうあくくさ人ヒトのあもけしシにうウりリ長ナガく成ナる
あやとつひく笑ウぬ

附

休雨ノ後山路ノ處^チハジヤリノ出タルヲ見テ面白ク思ヒ
カク置レタル故古人ハジヤリヲ置ト云テ打トハ云ナリニ也

天正十六年十月北野大茶湯中時豊カズ
宗易と召けとぬれ方々茶亭の風流沖遊
寛河りく烏丸亜相乃うこ居カる前とことと也
殆ど易このうらによ紀肩衝^チ以^チぬいとヤク入
アツセ^チ九月にくは

(北野肩衝)

ふ科の飛くりに居ちくつんといつか俺あり水

常に^テ取の釜一り妙々朝毎^コ糝^チといふ也とき
そと食一^チ終りく砂^チ妙々みぐい^チ清^チありか
うとと汲つと茶と樂^チくス一^チ首の程款と
よみまが

くごりりり^チのれい^チ口^チあ^チか^チと
増ありそとく^チと人^チか^チがな

阿が時利休日以^チす^チをよ^チし^チ所^チが^チ候^チし^チら^チひ^チて
そんとく^チこれ^チは^チけ^チひ^チら^チい^チと^チは^チれ^チじ^チら

くッんが家の外面ソトモに石井河り休人馬ウマ中ナカ程
 塵いおせらるチリときかどカんンくクけ水ミヅもくモク茶チャ飲インと
 各ナカごゴゆユんンとトッッひヒくク屋ヤるルとトなナらラりリッッん
 寸ツのノをを表アーーおおくくよよじじつつをを茶茶の水水ハハ筧カケ取取が
 りリとトももおおゆゆりり河河かかうういいつつよよ休休ののおおれれ人人、
 ううととああららむむととくくままううりり茶茶事事ららぬぬよよ時時と
 ううののささととくくかかととゆゆん

附

いいちちちちんんははかりりききんん下下京京にに福福阿阿弥弥ししいいぬ
 俺俺ゆゆりりききりり是是もも家家のの貧ヒツシささとといいくく茶
 三三昧昧めめくく言言一一けけかかうう一一ととせせののままああととまま
 くととななここーーここここにに中中侍侍ふ

煤煤くくびび門門松松ききとと寸寸餅餅付付ううん
 くくががおおーーももままいいささににままうう

おおよよららととああららむむのの俺俺ををかか人人桑桑門門ららととぬぬくく
 人人るるのの茶茶櫃櫃林林下下のの幽幽雨雨ーーああららままささににおおとと

ころとかりし生涯中の物と云ふ、隠具と
 とかのこにのれと、家の人も繁花の世
 事心とナニ惱し歌舞の宴席却く、氣と
 こりふに至りくも、静處も退し
 く心氣とや、みるんとも、只物と
 託し、塵胸とも、俗慮と消遣は、
 夫、百へ柵尾の上人、宋朝の茗、頭と小園、
 培養と、い、遍り、扶桑に生長と、

ぬ予嘗くと、海うの鳳團と試、ゆりし、
 近世宇治の極、え、り、お、よ、い、い、い、う、く、茶
 にも、ま、が、人、の、ゆ、り、こ、し、柳、ら、に、た、く、清、閑
 と、う、が、人、お、も、い、い、無、心、の、妙、處、よ、う、が、と、
 惣、く、一、味、の、極、と、や、い、い、人、或、至、人、の、無、味、と、
 り、ら、ふ、と、い、い、と、い、一、味、と、貴、と、が、も、不、可、い、い、う、ん、
 同、予、茫、然、や、く、く、答、が、し、く、何、こ、い、い、時、
 疎、牖、の、竹、影、漸、く、内、さ、に、書、お、れ、ん、と、い、

茶話指月集下終

自叙

本胡茶禮の行^{オキ}ゆ^トと^ナ也^ナ贈相國喜山公

其能^ク傳^フと^ルゆ^クと^ルゆ^クと^ルゆ^クと^ル珠光紹鷗

妻^トく^シ利休^ト大成^スするものち^ニ唐^ノ日^ノ陸東崗

庵^ヲ玉川^ニち^ニて^テ茶^ヲと^テ賞^スする人^ノた^ラま^ラる^ル所^ニ也

い^ハち^ニて^テ賓主禮讓の茶會者^トと^シて^テ開^スす^ル今^ノ果^シて

御代比屋ヒヤと感カ子シりリ頃キョウ茶道チャドウの正マコト傳デンとト家カ
 子シの支流シブツいつイツとト是コトとトいイ川カハとト非ヒとトん
 近チカくク唯タ休ヒりリ孫ムコ千チ宗ムネ且ナド 号元伯とトいイ少コ人ヒトあり
 生涯シヤガ利リ門モン名ナ路ロよヨ奔ハシすス常トコ母ハハ憲ケン廉レンとト名ナをヲ以テ
 清スガ味ミとト甘アマとト巴ヒ母ハハ七十シチジュウ餘ジョウ年ネン雪ユキのノりリ月ツキ見ミ女メ
 興キョウいイ時トキ茶チャ友トモとト招マツきキ興キョウつツくク時トキのノ時トキのノ時トキ

偶トキ々トクとト言イふフあアのノ名ナ茶チャつツいイとトくク本ホン来ライ禪ゼン
 一ヒト母ハハ更シにニ示シすスとト申マウすス也ナリ他タのノ一ヒト生シヤウをヲ
 がガとトいイひヒ右ミダ左ヒダリ人ヒトのノ茶チャ活カツとトいイ指サシ月ツキとトいイとトのノ
 けケとト得トクとトいイとトいイとトかカのノ系ケイ極キョク黄ワウ門モン和ワ歌カ
 無ム師シ匠シヤウ只シカ以テ舊コウ歌カ為シ師シのノ一ヒト道ドウ異イとト
 一ヒト理リのノ用ヨウとトいイとトいイとトあアはハ後コト村ムラ庸ユウ軒ケン 号及庵

年来且^{トシ}暮^{コロ}もすくくは清潭^{トシ}

余^{トシ}又^{トシ}了^{トシ}子^{トシ}家^{トシ}亦^{トシ}若^{トシ}りり^{トシ}一^{トシ}時^{トシ}若^{トシ}此^{トシ}茶^{トシ}席^{トシ}

ゆ^{トシ}らる^{トシ}因^{トシ}く^{トシ}あ^{トシ}れ^{トシ}る^{トシ}聞^{トシ}き^{トシ}ん^{トシ}ら^{トシ}る^{トシ}と^{トシ}然^{トシ}て

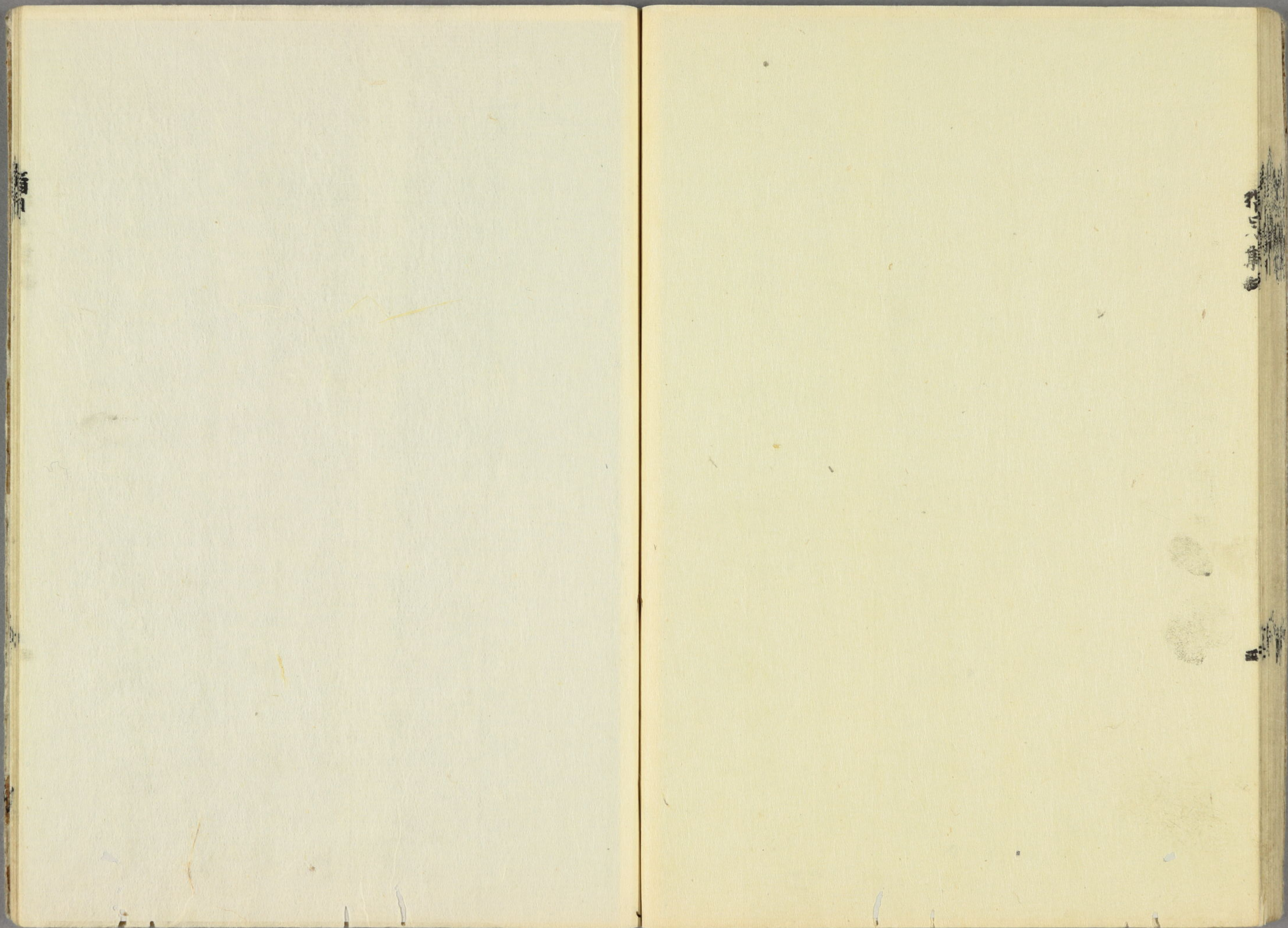
久^{トシ}し^{トシ}く^{トシ}書^{トシ}友^{トシ}も^{トシ}く^{トシ}守^{トシ}今^{トシ}茲^{トシ}元^{トシ}禄^{トシ}丁^{トシ}丑^{トシ}の^{トシ}秋^{トシ}

花^{トシ}ら^{トシ}り^{トシ}の^{トシ}心^{トシ}年^{トシ}来^{トシ}て^{トシ}と^{トシ}く^{トシ}油^{トシ}一^{トシ}海^{トシ}家^{トシ}

従^{トシ}同^{トシ}参^{トシ}妙^{トシ}人^{トシ}あ^{トシ}り^{トシ}て^{トシ}修^{トシ}く^{トシ}く^{トシ}福^{トシ}中^{トシ}の^{トシ}を^{トシ}也^{トシ}

了^{トシ}た^{トシ}る^{トシ}翁^{トシ}の^{トシ}指^{トシ}月^{トシ}堂^{トシ}東^{トシ}と^{トシ}ゆ^{トシ}く^{トシ}て^{トシ}い^{トシ}さ^{トシ}
ら^{トシ}ん^{トシ}や^{トシ}

河東故人鶴巢



一日色しつりつが名物記と因とけり
いれし趣よると秀く家も書とるゆへけり
類ばかりし聊覺束なにも加りぬ今奇
軸珍送洛中人口中何かとのとれ来由
とそこの糸糸と次は新言と分とく漫
よ記と前梓よ載かとのハ贅を以

一後鳥羽院宸翰尊影

賀茂松下家蔵

上ノ色紙形ニ御製三首ノ贅在リ

一説贅
後宇多帝勅筆

松下ノ祖社務氏久ハ院ノ季皇子タルニ依リ承
久乱後隱岐ノ島ニテ御ミヅカラサ尊容ヲ寫
シ氏久ニ贈リ賜フトナリ又世ニ御自畫自贊ト
称ス歌仙ノ色帝處々ニ散在ス圖様ノ風格最

一般

一後醍醐院勅作茶器

号金輪寺

芳野吉水院什物

世間ニ偽作多シ。偶真ノ同器ト稱ノ貴重スルハ
アリ。茶湯ニ出スニ、金輪寺會釈ト云テ申傳アル
人ノ云ク、禁裏寺ハ天皇ノ御作ナレバ昔ヨリ松波ノ
盆ニノ世来ルノ由古織記ニ置レ候

九條殿

一新古今竟宴御懷紙

後京極殿
御自筆

此御懷紙和歌入續古今 元久二年三月廿
六日新古今集竟宴行の道きかよ

後京極拾政太政大臣

あさしゆや、まるとまゑの海よし
花ろひし玉のみりれ水々子

鳥丸殿

一定家郷新勅撰

東山殿ヨリ妙善院殿へ御譲リ候傳書西三

條實隆卿ノ消息并上裏ノ紙ニ玄旨法印感
得ノ加筆分明

同
一葛細道硯箱 蔣繪 又名角田河

斯硯先年明曆の比

女院御所写サ志ヲ移ク岡東(トソ)セシカト

同硯箱

玩物匠藏家自時亦妻故叶以下惣除家名然既帶其名
称物不除

一 春の千年 古今集卷之

春の千ハ宿ままつゆ梅の花
つらゆの千とせのうらとをみふ

一卷の白川 ヒラカハ

あまのてみハあいらの
ちと白川のたのトウを
考そとも

盆石

一 末松山 スエノ

箱

桑華ノ記詩歌等副^マ爲^ニ往^{ソノ}昔^{カミ}ア^ル人^モ唐^ニ渡^リ
徑山寺ノ岩^{イハ}尖^{カト}ヲ研^{キリ}テ歸^リ朝^ス是^ニ其^ノ岩^ノ石^ニ
ト云^レ傳^フ凌^霄ニモ石^ノ痕^ニ今^ニ存^スト云^フ

一 殘雪

東山殿御物

一 小廬石

同

一 富士石

一 宗祇黒木文

利休取持讓於
勢多掃部

写 此黒木尾崎へ取やり池田へ取やり
ら作しこの紙は又ア^リ取^リ上^リし
八月あし寸紙と^リし七月七^日 宗祇判

子守部^ノ紙^ノク^ク

とつて

梶をかり草乃^ハ庭^ノと^リ物^ノな

以^テ無^ク

里村
一宗祇像

表具裏書云

自然齊宗祇居士之肖像繪并歌等近衛殿
入道殿下 御法名龍山之尊筆也

于時天正十七年初冬拜領畢

法橋紹巴判

千家
一利休像

極不審共先安堵了聊於龍樓可申披候

也謹言 二月十六日 定家

式部權太輔殿

一同慶賀文

字

慶賀事

右久積風欲左使レ曰勞遍浴虎賁
中郎之朝恩自愛也初々々々

既賀礼殊抽感懐

互昇るたつ乃心おもしろけれかひちるの代の
ころのうらむ人併胡洋喝し次りてし

廿六

左中お定

頃老友ノ物語ニ予カ若キ時分定家ノ掛物トイ
ハ先小倉色紙安樂菴ノ懐帛ヲ称シワルガ次
第二向上ニナリテ今ハ个様ノ文ハ小倉ニモ劣ラズ名
物ト人ノモテ離侍ル也

一筒井茶碗

秀吉公世系茶碗以自愛少と河分時近習の
人よりかゝるのよたす缺たすきれしたす出奇たす為たす所
前子おらゝきかろ

筒井の乃五のようを一舟戸茶目人答とい
はるはうまひよくしれと漢語よよむの横屋
まといのゆるぎ也

一 東陽坊

長次郎作一説昔利休招朝鮮人之造陶器者
使燒茶碗依是取朝鮮之朝宇名朝次郎云

一 膜濟

同

一 小黒

同

一 檢校

利休は所取れり長次郎は燒茶碗人
と稱す

さうくはよ一ツ流りそはとやうのよれ
茶碗は足知をえと檢校殿より打受いふ
名付はかたけり

一 葛蒲

同作

一 菰

同

一 再來

同

一閑居 司

一桃巷坊 同

一太郎坊 同

一一文字 同

一濡烏 ヌレオラス 同

春屋國師贊 頭上巾兼手中扇嚴然遺像舊
時姿趙州且坐喫茶底若不斯翁爭得知

一古溪墨蹟 利休取持出百會

此墨蹟文字少ニ削タル所アリ休カ友何トテ
和尚ニ書替テ御モラヒ候ヌソト問ハ休書テモ
ラフハ易ケレト態トハ出来ヌモノナレハ痕ノ見ユラ
厭スト答フ

利休栄葉文

写

定角くは色帯一尺せし給ん貴所い

似合るるしは葉のまよふてあそびていふ

人のせししうねん

一同辞世一軸

一草部屋肩衝

一兵庫茄子

ナスビ

いぢへ取捨の人利休へ初くこせりいひ茶入
長法めくはもいし加ういしつふまぬしは並う也
あつまといはまの体さすうあはく長法のうぢを載
よれがといはぬひ南庭よあそびてゆらうとく

一宗易布袋茶入

古備前

一 鷲小東

利休所持
出百會

袋ハ 太閤よりと宗易洋受の切名と蜀錦と云
け東宗旦の代子有樂奇と招ふく盆點タキト豆マメと
奇東の盆點タキりくく 空カラ且貴タカシ下の事初を
アも秘藏ありくくくの挨拶人の知チはと知チり

一 白粉解

同不持三宅
大遺記副馬

古一独ノ閑人嵯峨ノ清瀧ニ遊ニテ自然ニコレヲ
拾トフ由時ノ名宿文人タカシ太タカシ称ス其盆中雪景真ノ
士峯ニ異コトナラス

金華山

此奇石昔慈照院殿赤松某ニ賜フ玉仲老禪
記并詩春屋古溪和韻在リ

相國寺
一 虚堂墨蹟

同
一鳴鶴繪 二幅對

一清拙棺破墨蹟

一定家卿八條院文

字 八條院於御會愚詠趣以尋得假
笑栴落月をぬやとおもふをうらみおしむ
心乃外の春のよみ月とくしみましむ

一桃底金卷入 世ニ三本有之云

一よかろう二重筒 利休作 出百會

一くしめ坊 同作

一瓢單 名顔回

い瓢單ひし巡礼う腰し附子とけと休所

指

世

望し〜く花入る〜も現き〜御旦氣作り
も達磨のりねあ〜の背せに書けく
瓢ひょう単たんのんをす〜るが〜る理なり
の〜のぢあよのぼうあ〜所ところなりこと

一内曇茶抄ウチグモリ

宗易作筒
紹巳記有之

一雀香合スズメノ

利休所持

釜

一阿弥陀堂

同取持爾後三斎さんさいヨリ休夢しゆむ御讓ごじやう候時
阿弥陀ガ地獄ニ墮おちタト職しやくシ給たまフ

一オト乙御前ごぜん

同

一蒲團ふとん

同

一尻張しりばり

同

此外よりく同もまると多病疎懶くそんれし
 く止ぬ夫東求堂に奇と搜り珍と集りては
 もさばしにく繋るの本意をむと人し
 同とそものしぬ人し存しく墨寶名を
 中にありしよりくありし佛くこのみらに
 へ僻地のうそりく事とからひく同侶と會し
 何がそんぬまゆりく義茶淡飯のよし
 富家のまきけししゆりしつとく
 庵まの

浪華書坊
河内屋八兵衛梓

實錄年表

柳之白

石茶話指月集鶴菓子之所筆錄
而庸軒翁之說話也翁為人穎
脫林出於世俗之表強壯好學涉
獵經史誦習書義親戚朋友會
聚其講造者不少自勉勵入益
六有季晚年尤慕廬陸之風極

閑靜之趣精於茶式巧於茶技
將庶幾為當世之鷗休也歟其
門弟居多則不可謂之誣矣予
固不識茶事雖久斷知聞少年
之時數會講筵親炙有舊交
之好鶴巢子之請不可得而辭

為故述榎齋聊當跋云

辛巳正月乙未

田邊希明識



七月辛巳

元祿十四年 辛巳 春 正月 廿一日

心齋橋通南久宝寺町

泉本八兵衛藏版



寄託本

元祿十四年 春 正月 廿一日

心齋橋通南久宝寺町

